

11月緊急議会開かれる

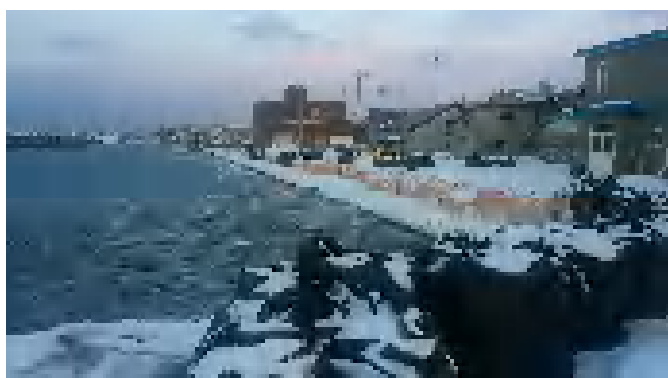
根室市議会は11月28日、緊急議会を開きました。会期は1日間。議題は人事院勧告に伴う職員給与費の改定のほか、高潮対策のための防潮堤の整備、ふるさと納税の増額などによる補正予算の審査等です。

防潮堤整備が前倒しに

根室市は、過去に何度か発生した異常な高潮により、緑町や弥生町などに深刻な浸水被害が発生しました。防潮堤の整備は市民のみなさんが待ち望むものでした。しかし、防潮堤の整備には、膨大な時間と費用がかかることが想定されていました。

このたび、国の災害対策等緊急事業推進費の配分が決定し、補正予算で4億4100万円が増額され、総工費が5億7千万円となり、当初約6年とされていた建設期間が2年となり、来年の11月には完成する予定です。防潮堤は弥生町の船溜まりに総延長393メートル、高さ2.5メートル、11門のゲートが整備されます。

2014年12月に発生した高潮が2.03メートルを記録しているので、2.5メートルの高さで一定の安全が確保されるものと思われまます。完成までの間は、現在も設置されているスーパーストイルの対応となります。



(弥生町に設置されているスーパーストイルの様子 本年2月撮影)

サケ・マス流網漁禁止

厳しと増す市中経済

ロシア200海里内サケ・マス流網漁業禁止元年となった本年、根室の市中経済は大変厳しい状況にあるようです。

本緊急議会の冒頭、長べました。

谷川市長は、サケ・マス流網漁業対策について行政報告を行いました。国の補正予算に基づき各種対策が行われましたが、市長は、代替漁業として取り組まれた「公海サンマ試験操業」について、「国の『もうかる漁業創設支援事業』において設定した計画数量の41.8%にとどまるなど、経営的にも大変厳しい結果となった」と述べました。

それが明らかに

代替漁業とサケ・マス流網漁業との比較で深刻な影響が明らかになりました。ロシア200カイリ内サケ・マス流網漁業根室市対策本部は、10月から11月にかけて、本年5月から7月にかけて実施された代替漁業（公海サンマ、サバ類・マイワシ試験操業）の結果と昨年のサケ・マス流網漁業との比較を調査しました。

それによると、水産加工

「漁獲された冷凍サンマは、海外輸出向けに限定した取り扱いとなったことから、水産加工をはじめ、運輸、燃油、製函、小売りなど関連業界への波及効果が発揮されず、これらを起因として、倒産や廃業を余儀なくされる事業者も現れるなど、地域経済の現状は一層厳しさを増している」と述べ

なっています。

運輸業では代替漁業8千8百万円、サケ・マス4億8千2百万円で、マイナス3億9千5百万円

81.8%の減。石油業でマイナス2億6千1百万円、61.1%の減。製函業でマイナス3千1百万円、67.6%の減。小売業ではマイナス3億6千万円で、率にして19.3%の減少にとどまっています。

これら5業種の合計では、マイナス116億円、78.9%も減少しており、サケ・マス流し網漁業の禁止がいかに大きいかかわかります。

ロシア側が一方的に200海里内での流網漁を禁止した背景にあるものを考えるならば、国がしっかりとその責任を果たし、短期的な部分と中長期的な部分の支援を行うべきだと考えます。

訂正

11月6日付の市議団ニュース 1820の中で、「サハリンの博物館で道の古文書関係の職員が見つけた」とあるのは、「サハリン博物館の古文書関係職員が見つけた」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。